



決算書を読み解く ポイントを押さえよう

ここでは、取引先の決算書を読み解くにあたり、それぞれの業種で押さえておくべき、特徴的な動きや変化をする勘定科目を中心にポイントを解説します。

中小企業診断士 特定行政書士

池澤 益彦 ①～③

中小企業診断士

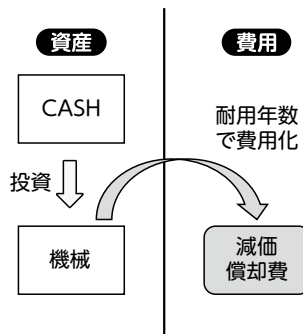
秋元 美信 ④～⑥

一般的な製造業の特徴として、小売業やサービス業など他業種と比較して、設備投資が大きい傾向があります。製品を作るには工場の建設が必要で、土地や社屋を始め、製造機械への投資が必要となります。これらは勘定でいうと有形固定資産へ会計されます。設備投資にはまとまった資金が必要です。手元資金で賄うこともありますが金融機関からの長期借入金で調達するケースが多いでしょう。これが製造業の貸借対照表の特徴といえます。損益計算書上の特徴としては、有形固定資産が大きいことから、その耐用年数にしたがい長期間にわたり費用化する、比

1 製造業

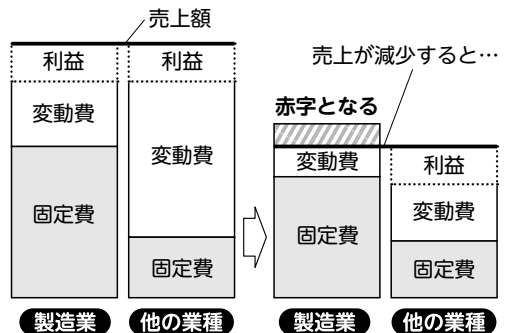
設備投資の減価償却費や固定費の動向を注視する

図表1 減価償却費



較的額が大きいです。「減価償却費」が発生します(図表1)。減価償却費は資金が減らない費用です。すでに設備投資を行った際に資金を使っているの、あらかじめ資金は必要となりません。減価償却費が大きいと損益が赤字でも資金不足とならず、金融機関は追い貸しをする必要がない場合もあります。この点の

図表2 売上と固定費の関係



見極めは大切です。もう一つの特徴は、固定費が多いことです。固定費は費用の中でも、売上高に関係なく一定の負担をする費用です。減価償却費のほか、地代家賃やリース料、日本では解雇が難しいので人件費などがこれにあたります。逆に売上高に比例して増減する費用は、原材料費や半製品の仕入などです。製造業は図表2のように他業種に比較して、売上高が「減少」した場合、固定費が大きい